

朝日寺だより

新年を迎えて

住職 若松隆英

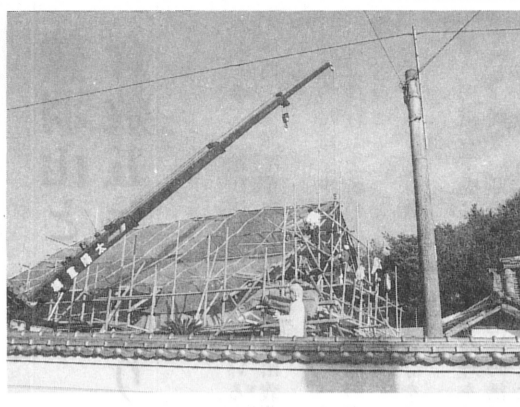


檀信徒の皆様明けましてお目出とうございます。良いお年をお迎えの事と存じます。

世の中パブル崩壊という事で不況風が吹き荒れております。地道な努力が目立たず、株土地等の値上がりによる不労所得が巾をきかすのは、やはり異常だった様です。脚下照顧、自分の足もとをみつめて一日々精出すという生活が今こそ必要なのではないですか。

比叡山・天台宗を開かれた伝教大師の言葉に「一隅を照らす、これ国宝なり」というのがあります。自分の持場に誇りと責任をもって一生懸命に努力を傾ける事が大きく言えばこの地域・この日本を支えていく事になる訳です。

さて、朝日寺の事を目を転じますと、去年は客殿修復工事の着手、墓地の造成と大きな事業が続きました。客殿は建つてから約六十年、その間に種々傷みが生じておりましたが、今回岩田建設さんによって根本的な修繕が施されてお



修理中の客殿

明けましてお目出とうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素はお寺の事につきましても何かとご協力をいただきましてありがとうございます。厚く御礼申し上げます。昨年一月十五日のお砂踏行事は総代会主催ではなく初めて朝日寺の行事として行われましたが、大勢の皆さんのお参りを戴き盛会でした。ありがたうございました。五月十三日の春の一日旅行では今までのない二四四名(バス三台)と言ふ沢山な方々のご参加を得、にぎやかな楽しい一日を過ごされました。又、十月七八、九と恒例の二泊三日の四国霊場巡りも、四十六名のお参りで高知県(土佐)十六ヶ寺と愛媛県(伊予)四ヶ寺の合計二十ヶ寺を巡って参りました。四国の道路が整備されましたので思ったより多くの寺巡りが出来ました。

皆様方に毎年ご無理を申し上げご協力をいただきありがとうございます。待望久しかった客殿の修復工事も寺山の樹を支給材として少しも役立たせようと昨年入札も終り、九月から本格的に工事に着手

年頭に あたって

総代長 島岡 篤

明けましてお目出とうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素はお寺の事につきましても何かとご協力をいただきましてありがとうございます。厚く御礼申し上げます。昨年一月十五日のお砂踏行事は総代会主催ではなく初めて朝日寺の行事として行われましたが、大勢の皆さんのお参りを戴き盛会でした。ありがたうございました。五月十三日の春の一日旅行では今までのない二四四名(バス三台)と言ふ沢山な方々のご参加を得、にぎやかな楽しい一日を過ごされました。又、十月七八、九と恒例の二泊三日の四国霊場巡りも、四十六名のお参りで高知県(土佐)十六ヶ寺と愛媛県(伊予)四ヶ寺の合計二十ヶ寺を巡って参りました。四国の道路が整備されましたので思ったより多くの寺巡りが出来ました。

密教婦人会の行事につきましては、大変ご協力を頂きまして、有難うございます。昨年を振り返ってみますと、恒例の五月八日の花祭りには、朝からの小雨模様、とても心配いたしました。役員の方々が朝早くから、沢山のお花を持ち寄って下さいました。とても有難いことだと感謝いたしました。幸い雨もあがり、これも御仏のご加護と感じました。

御挨拶

密教婦人会々長 松井時香

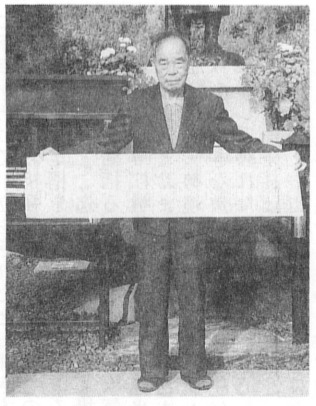
明けまして、おめでとうございます。平成五年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。昨年は、国の内外共に激動の年でございました。私個人にとりまして、思いがけない出来事があった年になりました。この非力非才の身に、密教婦人会のお世話をするようにとのことです。強くご辞退しましたが、許されずお引受けすることになりました。とても皆様方にご満足のいくようなお務めは出来ませんが、総代長様をはじめ、それ々々のお立場の方のご指導、ご協力をいただきながら、一生懸命つとめさせていただきます。前々の方々の会長様方々同様よろしくお願ひ致します。

昭和三十九年八月六日、月曜日、八時十五分、一瞬の閃光によって広島市全域を地獄と化した原子爆弾が投下された時です。私はこの年、米軍が沖繩へ上陸した直後の四月十一日、第三回目の召集を受け阿部芳光少将以下三十四名の広島鉄道司令部へ配属され、勤務中被災し、黒い雨を浴びた一人です。

私の原爆体験と写経

西部 畑中 実

昭和三十九年八月六日、月曜日、八時十五分、一瞬の閃光によって広島市全域を地獄と化した原子爆弾が投下された時です。私はこの年、米軍が沖繩へ上陸した直後の四月十一日、第三回目の召集を受け阿部芳光少将以下三十四名の広島鉄道司令部へ配属され、勤務中被災し、黒い雨を浴びた一人です。



修行大師前で

強い光を受け、白昼如何した事かと東方的に見ると、大きな白い雲が空高く上つていて、小さな白い散らした雲が四方へ矢の様に透明な、恐らく熱線である油が水面に拡散する如く拡がっているのを目撃、直後大きな爆風があり、民家の襖等は吹っ飛ばされた様です。

此の日は朝から雲一つない快晴で、近郊からまで小、中学生を動員して早朝八時頃、第一回空襲警報があり、之は一機のみで偵察のためであったらしく、間もなく解除、直後再び空襲警報発令、私はこの時爆心地方面を背にして報告書類の作製中でしたが、突然目が眩む様な

先ず校庭に並べ、当時の物資欠乏時代の事として治療薬もなく、只赤チンを塗るのみと言うお粗末さで、夏のことと火傷が化膿し、之に蛆がわき、一種異様な臭に閉口しましたが、此の様な人達で生存された人は一人もありません。

此の地区での救出の基地になったのは廿日市町平良小学校校庭で、軍用毛布に火葬にすべく処置し、まだ息のある者は一

段原の上官の奥さんは爆弾が投下された時丁度蒲団を日光に当ててため物干竿へ持上げた時で、腰より上は蒲団で遮蔽されて無事でしたが、下は露出していたため大火傷を負い、此の人は約一ヶ月の後に亡くなりました。

原爆体験と判明してより後は放射能の恐ろしさや、広島には之から七十年は草木も生えない等の噂が次から次へと伝わり、十月廿日一応復員はしたものの、到底長生きは出来ないものと家族共々覚悟して居ましたが、戦後既に四十七年を経た今日、司令部の方々の生存確認の必要に迫られ、県振興局の御協力も頂いて調査しましたが、消息不明や死亡確認等で私一人がこうして生き永らえているのが本当に不思議と思つて居ります。

私がお写経を始めたきっかけは、四年前密教婦人会の播州方面の寺巡りに参加させて頂いた時、順次お参りする内兵庫県赤穂郡波賀町にある朝日寺縁成の寺あり、その中で写経についてお話をされ、檀家で只一人一巻書かれた人があると聞き、又、写経用紙を一巻宛頂いたので私も始めてみようと思ひ立ち、精神修養とボケ防止にもなる位に考えて毎日、感謝の気持ちで書き続けて行く内、現在ではもう千三百五十巻を書き終りました。今年も十月七、八、九日四国巡りに参加させて頂き、高知県廿四番最崎寺より愛媛県宇和島の四十三番明石寺まで二十ヶ寺へ写経を一巻宛奉納させて頂きました。

年が明ければ私も喜寿を迎える事になりますが、之までの体験を基として人生に希望を失わない様、健やかな気持ちで其の日の日を大切に過ぎて行きたいものと思つて居ります。尚、写経は感謝の気持ちを忘れず可能な限り何時までも続けて行く積りです。 合掌